地域に貢献する四国の企業

―第6回 四国でいちばん大切にしたい会社大賞 受賞企業訪問―

中小機構四国

現場リポート

今回、昨日29日と30日の2日間にわたって取り上げる企業は、いずれも2017年2月に開催された「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」の受賞企業。同賞は、「四国の企業で、社員や顧客、地域から必要とされ『大切にしたい会社』と思われている企業等」を表彰するもので、四国地域イノベーション創出協議会、四国産業・技術振興センター（S-TEP）、産業技術総合研究所（産総研）四国センター、中小企業基盤整備機構（中小機構）四国本部が主催し、四国経済産業局のほか、四国の70の関係機関が後援・協力している。人口減少、生産年齢人口減少、少子高齢化という潮流の中、四国の企業はいずれも人手不足であり、人材確保・定着が最大かつ喫緊の課題となっている。ところが、そのような中でも、社員と経営理念を共有し、多様な働き方に合わせて社員満足度を高め、また地域との関わりを大事にして、業績を伸ばしている企業もある。そこで、中小機構四国本部の高山千佳歳本部長が17年2月に同賞を受賞した4社を訪問。現場リポートとインタビューを通じて事業戦略や社員を大切にする取り組みなどについて紹介してもらった。

「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」について

受賞した企業からは、応募動機について「社員の方から『ウチのような会社であれば、ぜひこの賞を狙いたい』との申し出があった」や、「社員のモチベーションのさらなる向上のために経営者として、ぜひこの賞を獲得したいと思った」などの声がありました。そうした声を受けて、訪問させていただくと、いずれの企業も社員の目が生き生きとし、社員が経営者の理念や会社の目標、実績をしっかりと語れる企業でした。このうち、30は次の2社を紹介します。

ジェム（香川県観音寺市）は、英会話と学習塾を運営し、地方都市でも大都市と変わらない充実した教育・レッスンが受けられるよう整備しています。そのため半数以上を占める女性社員の心のケアにも気を配り、時短勤務、在宅勤務、社内託児制度により、堅実にサポートし、また、ジェムの教育方法を地域の他の教育機関にも波及させ、地域全体で高い教育ができるような取り組みを行っています。

ゆうの森（松山市）は、在宅医療専門の医療法人であり、「寄り添う医療」を究極まで追求していこうとしています。

「良い医療を実践するためには、理念、システム、そして人材の三つがそろうことが大事」との信念から、毎朝、スタッフ全員によるミーティングでの経営理念の唱和で患者本位の理念の浸透を図っています。また、スタッフが疲弊しないよう、時短勤務、有給取得促進制度、育児休業制度などを充実させ、組織的にスタッフのワークライフバランス向上を推進しています。

これからの時代がどのようになっていくかが極めて不透明になっていますが、社員の満足度が向上し、また、地域から必要とされる企業は、どのような時代になろうとも、基礎体力が出来上がっている企業として、業績を伸ばしていけるものと思います。

社員の満足度を高める仕組みが重要

中小企業基盤整備機構 四国本部長
高山 千佳歳

四国でいちばん大切にしたい会社大賞とは

社員や顧客、地域から必要とされ、「大切にしたい会社」と思われている企業等を発表・表彰することにより、企業経営の新たな取り組みを後押しし、企業活動の活気づくり、ひいては四国地域の経済活性化に貢献することを目的に、2011（平成23）年度から毎年実施している。

【過去の受賞企業】

	表彰区分	受賞者
第1回（11年度）	四国経済産業局長賞	（株）ときわ（徳島県徳島市）
	中小企業基盤整備機構四国本部長賞	（有）ジェム（香川県観音寺市）
		（株）はなおか（徳島県北島町）
	県総賞	医療法人ゆうの森（愛媛県松山市）
第2回（12年度）	四国経済産業局長賞	（株）ありがとうサービス（愛媛県今治市）
	中小企業基盤整備機構四国本部長賞	笑夏商工（株）（徳島県徳島市）
	県総賞	（株）パワーネット（香川県丸亀市）
		（株）エヌビーエム（香川県宇多津町）
第3回（13年度）	四国経済産業局長賞	四国管財（株）（高知県高知市）
	中小企業基盤整備機構四国本部長賞	（株）あわしま堂（愛媛県八幡浜市）
		（有）協同印収（香川県三豊市）
	県総賞	市岡製菓（株）（徳島県小松島市）
第4回（14年度）	大賞産業（株）（香川県高松市）	
	中小企業基盤整備機構四国本部長賞	ウインテック（株）（愛媛県東温市）
	県総賞	（株）トーカイ（香川県高松市）
第5回（15年度）	四国経済産業局長賞	日本食研HD（株）（愛媛県今治市）
	中小企業基盤整備機構四国本部長賞	（株）スワニー（香川県東かがわ市）
	県総賞	徳武産業（株）（香川県さぬき市）
第6回（16年度）	四国経済産業局長賞	西精工（株）（徳島県徳島市）
	中小企業基盤整備機構四国本部長賞	
	県総賞	（株）ファースト・コラボレーション（高知県高知市）

―奨励賞―

医療法人ゆうの森 永井 康徳 理事長

―事業内容を教えてください。

「2000年に四国初の在宅医療専門の診療所として開業しました。現在はこれに加えて、訪問介護事業や高齢者専用住宅などを手がけており、患者とその家族が安心して在宅療養できる『寄り添う』医療を目指しています。また12年には、愛媛県南部にあった年間赤字3000万円の公立へき地診療施設を引き取り、在宅医療と都市部の当院との一体運営により、黒字化を達成しました。16年には在宅療養患者のための病床を開設して有床診療所となり、より一層『寄り添う』医療を進められるようになりました」

―在宅医療の質を高めるために必要なことは何ですか。

「『理念とシステム、それにマンパワー』この三つがバランス良くそろわないと質を高めていくことは難しいと考えています」

―そのために取り組んでいることはありますか。

「マンパワーということでは、『医療スタッフを疲弊させてはならない』ということに尽きます。当院では在宅医療を推進する上で、『24時間365日の対応』を掲げています。患者さんの要望に常に対応できる体制を整えておくことは重要ですが、それによって医療スタッフが疲弊してしまうようでは事業は成り立ちません。当院では、個人の力に頼らないチーム医療を実践するとともに、スタッフの連携を高めるため、定期的にワークショップを開く」

―システムの面ではどうですか。

「いくら職場環境を整備してチーム医療を掲げても、『この仕事はこの人にしかできない』という状況をつくってしまうと、休むことができなくなります。当院では情報の共有と治療方針の統一（カンファレンス）を図ることがチーム医療には大切だと考えており、クラウドを活用した情報共有や、多職種の医療スタッフ・遠隔地のスタッフなど全員が必ず参加する毎朝のミーティングを通じて、スタッフ全体の意思統一を図ることで対応しています」

―理念の浸透という点ではどうですか。

「在宅医療に大切なこと一つ一つを丁寧に、教育・研修事業にまとめた小冊子（クレド）を作成し、朝のミーティング時にスタッフ全員で唱和することで、理念の浸透・共有を図っています」

―今後の事業展開は。

「当院として広く事業展開していく計画はありませんが、ありがたいことに在宅医療を志す医療従事者からの問い合わせは多く、これまでも受け入れてきました。今後は、一層、教育・研修事業に力を入れて、在宅医療のノウハウを広めていき、地域の役に立つ、必要とされる医療機関になりたいと考えています」

地域医療を志す人材の受け入れも積極的に行う（研修会）

訪問企業インタビュー

チーム医療を実践

【企業概要】

▽本社所在地＝松山市、089・911・6333▽資本金＝500万円▽従業員＝103人▽設立＝2000年（平成12）10月▽事業内容＝在宅医療を主体とする診療所の運営

日刊工業新聞
（2017.6.30）